

## 第3回「河内長野市総合計画審議会」会議録

日時：平成27年3月26日（木）

午後7時00分～

場所：市役所8階802会議室

### 出席委員 30名

- |            |   |
|------------|---|
| 1号委員       | 浦尾雅文、大原一郎、木ノ本寛、駄場中大介、中林圭見                               |
| 2号委員（各種団体） | 上奥雅勇、生地孝至、曾和孝司、西村道夫、廣瀬義雄、<br>牧田久美子、増田勝紀、三浦佐江子、山本明彦、道本雅秀 |
| 2号委員（公募）   | 出水季武、黒川陞、幸山善信、渋谷修、中畔美代子、<br>水谷邦子、村上靖毅、森脇稔               |
| 3号委員       | 増田昇（会長）、農野寛治（副会長）<br>嘉名光市、田中晃代、中道厚子、紅谷昇平、               |
| 4号委員       | 松倉昌明  |

### 欠席委員 12名

- |            |                         |
|------------|-------------------------|
| 1号委員       | 山口健一                    |
| 2号委員（各種団体） | 上野修二、奥野豊、松尾正氣、吉村禎二、吉年正守 |
| 2号委員（公募）   | 堀泰明                     |
| 3号委員       | 小野達也、加藤司、加我宏之、戸谷裕之      |
| 4号委員       | 松井芳和                    |

### 事務局

総合政策部長：辻野

総合政策部副理事兼政策企画課長：小林

政策企画課参事：島田

政策企画課課長補佐：緒方

政策企画課主幹：谷ノ上

政策企画課主幹：尾西

### ジャパンインターナショナル総合研究所

伊藤研究員

#### 【辻野部長】

ただ今より、河内長野市総合計画審議会を開催します。委員の皆様には、ご多用のところご出席賜りまして、ありがとうございます。これまでご議論いただいた内容をパブリックコメント素案としてまとめましたので、ご確認いただきたいと考えています。会議成立の報告をいたします。総合計画審議会条例題6条第2項におきまして、審議会は委員の半数以上の出席で成立いたします。本日出席の委員は現在のところ28名で、42名の半数以上のご出席となり、審議会は成立します。それでは、増田会長、議事の進行をよろしくお願いします。

#### 【議長（会長）】

皆さんこんばんは。これから進めさせていただきます。

先ほど総合政策部長からありましたように、今までの議論を踏まえて、パブリックコメントの素案として取りまとめています。4月末からパブリックコメントにかけたいということですので、ご協力をよろしくお願いします。

本日の議題は、「基本構想パブリックコメント素案について」と「その他」ですが、素案についての議論が主だと思います。それでは、議事1「基本構想パブリックコメント素案について」事務局からご説明をいただきたいと思います。

#### 【緒方補佐】

資料の確認をいたします。本日の次第。A3の二つ折りの「パブリックコメント素案」の概要。事前にお配りした資料の25ページの図が、白黒では分かりにくいということなので、カラーで1枚ご用意しています。また、事前に「基本構想パブリックコメント素案」の冊子をお送りいたしましたが、お持ちでしょうか。

まず、今日お配りした「パブリックコメントの概要版」の説明をして、全体像をご確認いただいた後、文章を説明いたします。

概要版には、「総合計画とは」ということで、「計画策定の目的」、「総合計画の構成と期間」、「総合計画の策定の視点」と4つの視点を書いています。

続いて、「総合計画策定の背景」ということで、「社会潮流」として「1. 少子・高齢化の進行による人口減少及び人口構造の変化」をはじめ、7点書いています。その横に「河内長野市の現況」として、「人口の動向」、「土地利用」、「財政の状況」という形でそれぞれまとめています。このようなことから、「河内長野市の主な課題」を1番～10番まで並べています。

右側のページは、「まちづくりの基本理念及び将来都市像」ということで、「まちづくりの基本理念」と「まちづくりの視点」。「将来都市像」は現在検討中で、案を並べていますが、広くご意見も頂戴したい状況です。

その下の「将来人口と都市空間の基本的な考え方」では、「将来人口」の想定を10万人とすること。「活動人口」も増やしていこう、高めていこうというもの。それから、「都市空間の基本的な考え方」で、大きな方向性としては、「ネットワーク型コンパクトシティ（集約連

携都市)」を目指そうということ。2番目は「コンパクトシティづくり」で、内容の説明。その下は、3つの目標を記載しています。

最後のページ、「将来都市像実現に向けたまちづくり」ということで、「政策の体系」を並べていますが、大きくは、「将来都市像」に向けた「Ⅰ：まちづくりの方向」としての3つの目標を立てて、それぞれ進めていくこと。それを着実に進めるために「Ⅱ：計画実現のための方策」ということで、詳細な部分を書いています。

最後の「計画の推進に向けて」は、「進行管理の仕組み」と「計画推進の体制」にまとめました。以上でこの資料の説明は終わります。

事前にお送りした冊子については、これまでも皆様方にご意見を頂いていますので、前回、第4回の部会から修正した点を中心に説明いたします。印刷の加減で、濃い網掛けになって見えにくくなったことをお詫びいたします。

今回新たに、各ページの下に文言の注釈を付けています。例えば2ページでは、「協働」とはどんなことかを書いています、このような注釈が各ページに出てきます。

6ページの「第1節 社会潮流」の6番は、「住民自治社会の実現」でしたが、「市民主体のまちづくり」がいいとの意見が出たりしまして、最終的には「地域のつながりの重要性」としています。

7ページの「2. まちの特性」の「産業」のところで、河内長野の地場産業として特筆すべきものを整理して記載しました。

8のページは、「(2) 人口減少、少子・高齢化の状況」の「少子」にマークが付いています。従前は「人口減少、高齢化の状況」でしたが、少子化についても深刻な状況だということ、少子化の部分の記載も加えています。

11ページの「空き家・空き地が増加している」という表現ですが、空き地は必ずしも増加している状況ではないので、「これらの対応が求められています」という表現に変えています。

13ページの「(3) 財政収支の状況」では、14ページの図8に、財政調整基金が横ばいであるということを書いています、現状では厳しい状況ということも付け加えています。

17ページの「1. 急速な人口減少と少子・高齢化への対応」の網掛けの部分については、人口が減っていくので、人口を増やす手だてを打たなければいけないということを書いていましたが、人口が減っていくことについての対応も必要ということで追記しています。

「3. 安全で安心なまちづくり」では、次ページに「消防・救急体制や医療体制」も安全・安心に欠かせない要件だということを追加しています。

5番の産業の振興は、「地域の連携による」から、「地域資源の活用と連携による」に修正しています。

6番も、「自然や歴史・文化を活かした魅力のある都市づくり」でしたが、自然・歴史・文化を活かすということは、都市づくりの中の一部であるということ、より包含した表現として「質の高い」という言葉を入れています。

7番の教育は、「教育立市による」という言葉を使っていましたが、課題に政策の名前が付

くのはどうかという意見がありましたので、修正を重ねて、最終的に「学びを通じた人づくり・地域づくり」になりました。

19 ページの8番は、もともと「市民主体のまちづくり」というタイトルでしたが、社会潮流の項目で文言を使う兼ね合いから、「地域コミュニティの活性化」という表現にしましたが、「地域」も「市民主体」も大事だということで、「市民主体の地域づくり」となりました。

20 ページの第3章の「第1節 まちづくりの基本理念」で、囲っている「まちづくりの基本理念」の「人・自然・歴史・文化など」は、前段の文章で書いていましたが、ここの部分が基本理念として重要ではないかというご意見がありましたので、ここに挙げています。以前から基本理念として挙げていた文言は、新たに「まちづくりの視点」という形で構成し直し、基本理念に基づいた視点でまちづくりを進めてはということ整理しています。

21 ページは、案1として「人・自然・歴史・文化がつながる暮らしやすく育みやすい活力あるまち河内長野」を載せていますが、よりたくさんの意見を頂きたいということで、下に、ヒントになるような案を並べています。最後の「※他に良い案があれば、その将来像の「意味」も含めてご提案ください」は、広く意見を頂ければという書き方をしています。

続いて、22 ページの「将来人口」については、文言を整えています。

23 ページ、「第2節 都市空間の基本的な考え方」の2番は、「生活圈と拠点の連携を図りながら、多様な価値観に対応した、豊かな生活を創出」という副題を付けて、さらに拠点について説明を加えているところは、今日配布したカラーの「将来の都市空間概念図」をご覧ください。この「都市空間概念図」には3つの要素があります。

まず1つ目の要素として、エリアという概念があります。黄色い「まち」のエリア、黄緑色の「里」のエリア、さらに南に下った「森」のエリアということで、この3つのエリアの説明をしています。

2つ目は軸です。まず、赤い太い矢印は鉄道の軸。グレーは道路軸で、工事中や計画中のものは点線になっています。水色が河川軸。黄色い矢印は歴史軸ということで、高野街道を表現しています。印刷の加減で北のほうが見にくくなっていますので、見やすくいたします。

3つ目は拠点であり、2種類の拠点を考えています。まず1つ目として、いろいろな都市機能を集積していく拠点であり、主要3駅をイメージしています。都市拠点として、中心市街地の河内長野駅周辺、地域拠点として、千代田駅と三日市町駅にいろいろな機能を集積する拠点を表しています。次に本市の特性を活かした拠点として、濃い水色の部分が行政サービス拠点で、河内長野市役所や警察署、キックス、職安など、いろいろな行政サービスが集まっている拠点として位置付けて、河内長野駅と近い立地関係なので、関連性を持って拠点という形でくくってはどうかということで、薄い線にくくっています。2つ目のピンク色の拠点は、先日オープンした「奥河内くろまろの郷」の部分で、地域活性・交流拠点です。最後に、消防・防災拠点として、消防本部を加えています。このような本市の特性を活かした拠点の説明を本文にも加えています。

26 ページの「第1節 政策の体系」に基本施策を並べていますが、タイトルに変更があっ

た部分は下線を引いて、網掛けをしています。全体像はこういう状況です。

27 ページの「基本政策 2」のタイトルは、「互いに支え合う福祉の充実」でしたが、市民だけが互いに支えあうイメージで、行政が出てこないということで、「みんなで共に支えあう」として、市民だけではなく、行政、事業者、多様な主体が支え合う表現にしました。

2つ目のポツについては、孤立化や地域包括ケア関係の話の中で、国の資料では「自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるよう」という表現が使われましたので、活用させていただきます。

3つ目の障がい者の部分については、障害者権利条約の批准の話などを頂きましたので、より充実した書きぶりで表現しました。

28 ページの上から3つ目のポツは、この4月から、生活困窮者に対応する法律が施行される関係もありますので、充実した記載をしています。

「基本政策 4」の上2つのポツは、子ども関係の部分で、上が子育て支援、下が児童福祉の部分です。「基本施策 2」に福祉についての記載がありますが、子どもの部分は、まとめて別にしたほうが良いというご意見を頂きましたので、児童福祉については、子育て支援と同じところでの説明ということで、「基本政策 4」に記載しています。その下、線を引いて消している部分は、教育のほうで説明したほうが良いということで、「基本政策 5」に移しました。

29 ページの「基本政策 5」は、教育について記載していますが、タイトルを「ふるさとを誇り」と記載し、「未来を開く」の「開く」を「拓く」に変えています。

2つ目と4つ目のポツは、「基本政策 4」から移したため、修正を加えた印を付けています。

「基本政策 6」は生涯学習ですが、「歴史・文化を活かした」ではなく、より広い概念で、「生涯にわたる多様な学びの推進」という表現をしています。

2つ目のポツの「芸術の振興や古典の普及」は、ここで説明したほうが良いということで5つ目から移動したため、色が付いています。

「基本政策 7」は、「思いやりとぬくもりを」でしたが、1人1人が活かされることが大事だということで、「一人ひとりを大切にする思いやりのあるまちの推進」に変えています。

30 ページの「基本施策 8」は、「自然が調和する環境づくりの推進」でしたが、「豊かな」と「暮らし」を入れました。

「基本政策 9」は、もとは「都市づくり」でしたが、ハード的な部分も説明していることを表現できたらということで、「基盤」を入れています。

都市基盤づくりは、生活利便性を高めることが重要ですが、併せて地域経済活力を高めていくことも重要だという意見がありましたので、付け加えています。

31 ページ、「基本施策 10」の産業の振興については、新たに作成されている産業振興ビジョンとの整合を図るために、文言の整理をしています。

その下の「包括的政策」は、「横断的」よりも「包括的」が良いという意見がありましたので、この表現にしています。その中で、もともと「都市ブランド」という言葉を使っていたのですが、「都市」という言葉は他にも使っているので、「河内長野ブランド」が良いのではな

いかという意見がありました。しかし、「河内長野ブランド」は産品で河内長野のブランドがあったりするので、ここでは「河内長野ならではのブランド」という表現をしています。

32 ページの「基本戦略1 協働によるまちづくり」の2つ目のボツの文章が分かりにくかったので、広い概念を入れた、明確な文章にしました。

4つ目のボツは、「協働によるまちづくり」に対して、行政の体制づくりをするという観点を追加で入れています。その中で、地域に出向くことも含めての地域支援体制と各部署間の連携が大事だというご意見を頂きましたので、併せて記載しています。

関連して、「基本戦略2」の職員の資質の部分で、「市民と共に考え、共に活動する」という部分を重要視していますので、追加で入れています。

33 ページの「第6章 計画の推進に向けて」は、構成の組み替えをしています。まず、「第1節 進行管理の仕組み」として、「1. PDCAサイクルによる進行管理」と「2. 予算・財政計画との連動」と、それに対するイメージ図を載せています。

34 ページの「第2節 計画推進の体制」では、「庁内における計画推進の体制」と「広域行政への対応」を一緒に書いていましたので、3つの要素に分けて表現いたしました。

説明は以上です。ご意見等がありましたら、よろしく申し上げます。

#### 【議長（会長）】

今まで議論してきたものを、素案として取りまとめた概要と、変更を加えたところについて、ご説明いただきました。お気付きの点やご質問がございましたらお願いします。

#### 【松倉委員】

31 ページの「基本政策 10 にぎわいと活力を創造する地域産業の振興」に関して、今、観光や産業振興を広域的に広げてみんなで豊かになろうという取り組みをされていて、河内長野市も「ダイヤモンドトレール」のように、二上山から和泉の槇尾までのハイキングコースになる10の市町村が連携して、みんなでPRし、地域にお金を落としてもらって観光客を呼び込もうという取り組みもあると思います。また、防災上も広域的に連携することは重要になると思いますので、「にぎわい活力を創造する」のところに、河内長野市だけではなく、貴重な文化や財産を、近隣の南河内や奈良県も含め、みんなで盛り上げていくような推進のイメージを盛り込んでいただきたいと思います。

#### 【議長（会長）】

34 ページの「第2節 計画推進の体制」の「3. 広域行政の対応」に「市民の生活圏の広域化や、少子高齢化の進行、財政状況に対応し、市民サービスの維持・向上を図るための広域行政」と書いているので、ここに「産業振興」や「観光」という言葉を入れることもできると思いますので、ご指摘いただいたことは、ここに入れたほうがいいかもしれません。

事務局は、今のご指摘について何かありますか。

**【緒方補佐】**

その方向で検討させていただきたいと思います。

**【森脇委員】**

「Ⅰ：まちづくりの方向」で「基本目標 1、2、3」と目標を細分化して、「Ⅱ：計画実現のための方策」もまた3つにくくっていますが、この基本政策に対して、戦略がなければいけないのではないのでしょうか。いったん目標を細分化して、またくくって戦略になってしまっていますので、政策に対してどういう基本戦略を行うのかということが書かれていない。この3つにくくってしまって、また問題点をぼやかしてしまっているような気がします。

**【緒方補佐】**

「Ⅰ：まちづくりの方向」と「Ⅱ：計画実現のための方策」の関係性の説明が不足していたかもしれません。まず、戦略的に進めましょうという部分で「Ⅰ：まちづくりの方向」の「基本目標 1、2、3」を挙げていますが、こういった部分を下支えする考え方を進めていくための基本的なベースとして取り組まなければいけない方策があり、「協働によるまちづくり」、「行政運営」、「財政基盤の確立」がしっかりしていないと、上のまちづくりという部分を戦略的に進めることはできないという関係性で2つに分けています。

**【議長（会長）】**

基本政策の一つ一つに戦略を書いていくことができないので、「まちづくりの方向性」として、「基本政策 1」から「包括的政策」まで含めて 11。事務局が説明されたように、共通した戦略として、まずこれがきちんとないと成立しないという構造になっています。

**【出水委員】**

この総合計画のあるべき姿やこうありたいという姿は、今まで議論されてきたことなので異論はありませんが、問題はいかにしてこれを実現するかということです。これを実現するための方策が 32 ページに書いてありますが、この程度で本当にいいのですか。ほとんどの文章が、「促進します」、「協力します」というようなことだけしかないのです。

具体的な例として、人口が 10%減るとおそらく税収は 20%減ると思いますが、その時に行政としての体制はどうするのかということに一切触れていないのです。都市空間のイメージは浮かべていますが、行政のイメージは全然書いていないのです。

「選択と集中」ということで、全てが集中したらどうにかなるという概念を持っておられると思いますが、これから高齢化し、スモールシティができた場合、今までのような行政サービスの在り方ではやっていけないはずですが。私は、わざと市役所の解体を言っていますが、今後高齢化していく地域に対して、どのような行政サービスをしていくのか。あるいは、人

口が 10%減ったときに市の職員はどうするのか。人員を減らすのか、給料を減らすのか、増税するのか、本当は議論しなければいけないはずですが。それを 32 ページに書いているようなことで、そこで議論してやっていけますということでもいいのですか。

将来の都市イメージとしてはこうだということであれば、行政の在り方はこうだということくらいはここに出すべきではないかと思います。それが根本的な問題で、他のことについても、一体どのような覚悟と手順でやっていくか。10 年後、私やここにおられる方は、この結果の検証に立ち会うことはできないと思いますが、このままの方策で、職員たちが考えて目標管理していきます。となったら、恐らく 10 年後、評価は B。人口は 9 万人になりました。でも、努力しましたから評価は B ですね。この間の第 4 次の総合計画と同じ結果になると思うのですが、いかがでしょうか。

**【議長（会長）】**

どの部会でそのような議論をされたのですか。

**【出水委員】**

教育と福祉の部会です。

**【議長（会長）】**

その部会のメンバーで、どんな議論があったか覚えていませんか。

**【副会長】**

部会の中で、市役所の解体、地域に向かっていくべきだという流れの話を頂いたと思います。将来を見据えた最悪のシナリオをどこまで描くのかという話ですが、ビジョンを描くということと、描いたビジョンに実態が伴っているかどうかの確認については、PDCA サイクルの中で、特に実施計画については、3 年という総決算、しかも 1 年ごとに見直す形なので、あるべきビジョンを描くということと、実態を検証しながら見つけ直すことは、少し距離を置いて考える必要があるのではないかと、今の時点では思います。

**【幸山委員】**

今は、第 5 次総合計画の基本構想を審議していますが、これとは別に基本計画と実施計画がありますので、今ご質問の件は、基本計画なり実施計画に盛り込めばいいと思います。

基本構想としては、概ねこの内容でいいと思います。

**【駄場中委員】**

「選択と集中」とかコンパクトシティの在り方についてですが、先ほどの意見に賛成です。都市機能を 1 点に集める、あるいは広域化を行って、広域でかつその機能が集約していく方



向で進んでいくと、地方はどんどん廃れていくことの繰り返しだと思います。確かに効率化で安くつくかもしれませんが、例えば南河内で集約したら、富田林に集中して、河内長野が廃れていくという方向にあるのではと思います。地域に行政サービスを広げていく考え方のほうが、そういう道ではないかと思っています。これは、根本的にここに書いてあることは違うと思います。

#### 【議長（会長）】

ここで言っているコンパクトシティは、1点集中型や串刺し型ではなくて、23 ページにあるように、みんなが生活している生活圏と駅前の地域拠点をきちんと連携して、生活の利便性や、生活の快適性・安心性をこの生活圏の中で担保しながら展開していく「ネットワーク型コンパクトシティ（集約連携都市）」、あるいは「2. 河内長野市の特性を活かしたコンパクトシティづくり」という形で表現されているのではと思います。

#### 【駄場中委員】

河内長野は3つの駅に分かれていて、駅前1点集中にはなっていないので、ましな部分はあると思いますが、この3点なり6点に納めていくのではなく、中学校単位、小学校単位に広げていく方向にしないと、今回はこの3点だけれど、10年後には河内長野駅1点にしようかというような基本的な方向に議論の基があるので、その辺が少し違うと思います。

#### 【議長（会長）】

都市構造で議論をいただいたと思いますが、25 ページの図だけではなく、23 ページの都市全体の構造として見た図で、先ほどの小学校区や中学校区の生活圏は重要で、この中で「自立性の確保」、「既存ストックの活用」、「特色を活かしたまちづくり」などが書かれているので、完全集約型ではなく、生活圏を大事にしながらのネットワーク論だと理解しています。

#### 【木ノ本委員】

私は都市・環境の部会に出ましたが、市街地や山間部、全てに共通して、河内長野は受入体制が問題で、受入体制をそれぞれの地域でどう自立させていくかという部分が抜け落ちているような気がします。その文言を適当なところにうまく入れていただくと、広域化になっても河内長野の良さでここへ引き留めることができますし、他から入る受入体制も整えておけば、どんどん入っていただけるようになると思います。

#### 【牧田委員】

第1部会では、「集中と選択」のところで、河内長野は、都市の中心と開発地と山間部でいろいろな特徴があって、過疎化し空き家などの問題があるのは山間部や開発地で、50%に近い高齢化率、子どももいない、だんだんと市外へ出て行くという現状の中で、これから5年、

10年先はどのようなのだろうかといったときに、市の中心だけではなく、各地域に拠点をつかって、そこで介護、医療、教育、全てが中央との連携をとり、生活圏を充実させる必要があるのではないかという話し合いをしました。それが先ほどのコンパクトシティのイメージです。この中で「選択と集中」の縦横のネットワークも必要ではないかという話をしました。

#### 【副会長】

第1部会の議論の中で、出水委員がご指摘された役所の機能の在り方についての議論の流れの中で、役所機能の地域への分散化という質の話をさせていただきました。一方、今求められているのは、地城市民の互助や仕組みであると。一方で役所の機能として、今おっしゃったように地域がパッチワーク化していく中、役所が果たすべき機能の役割について、分散化も考えた配置の在り方が必要ではないかという議論がありました。

今おっしゃったネットワーク型のコンパクトシティですが、例えば拠点づくりのために、行政や市民がどんなことができるのかというネットワークの中身と、そこに載っている行政の役割と市民の役割をどこかでしっかりと議論し、整理しなければならないと思います。

私のネットワークコンパクトシティの理解が正しいか分かりませんが、そういう議論が第1部会であったことを認識しています。

#### 【議長（会長）】

今ご指摘頂いた話は、23ページに黄色の網掛けで入っています。議論を受けて「河内長野市の特性を活かしたコンパクトシティづくり」の副題として、「生活圏と拠点の連携を図りながら、多様な価値観に対応した、豊かな生活の創出」、ここに生活圏と拠点の両方を連携しなければという気持ちが表れていると思います。ここを「生活圏と拠点の連携」とするか、1歩踏み込んで「生活圏の自立性と拠点との連携」と書くかどうかだと思います。

もう1点、木ノ本委員から頂いた、地域の自立性や特性を高めていくためには受入体制が重要ということは、「基本戦略1 協働によるまちづくり」か「基本戦略2 「選択と集中」による行政運営の推進」に入るかもしれません。

出水委員から頂いたご意見は、幸山委員が言われたように基本構想なので、32ページの「基本戦略3」で、人口減少による市税の減少、高齢化に伴う社会保障関係経費の増加の中で、行財政改革を積極的にやっていきますと書いているので、この部分が大事だと思います。今の体制の中で、粛々と縮小が生じていくのではなく、積極的に行財政改革に取り組みますというようなことを基本構想のところで書いていて、それを実施計画や計画レベルで具体的にブレイクダウンしてどう書くかということだと思います。

#### 【出水委員】

コンパクトシティで、ここで書かれている「選択と集中」という方向や拠点づくりは、否定はしません。ただあえて、もう一度発言させていただきたいのは、この中に、コンパクト

シティを挙げるのであれば、コンパクトシティに対応できる行政体制を必ず入れてほしいのです。歩いて行けるような小学校区、もしくは、あえて小さいところをイメージしてコンパクトシティと言われていると思いますので、そこに行政の窓口や機関を置き、さらに福祉に関連する窓口も置いて、地域の活動の中に彼らが一緒になって指導していく役割が必要になることを私は言っているのです。コンパクトシティと書くのであれば、行政もそれに合わせる体制を敷いて、もっと住民側に入っていくという姿勢をここに打ち出すべきではないですか。ここは「行政もコンパクトシティに対応した体制を構築していきます。検討していきます。」という文章にしていきたいと思います。

#### 【西村委員】

19 ページの「10. 健全で効率的な行政運営と広域連携の推進」を読むと、先ほど委員がおっしゃった「「選択と集中」による成果重視の効果的な行政運営」、「さらに新たな時代に対応し、まちの魅力を向上していくため、財源の確保や公共施設などの適正管理など」と、これに近いことがあると思います。要するに、1点集中型は無理だということを入れればよいと思います。

#### 【中道委員】

25 ページの図を読んだときに、千代田駅、河内長野駅、三日市町駅周辺の方は、今までどおり盛り上がってよかったと思いますが、それ以外の地域の方には、疎外感を感じさせてしまうのではないかと思います。将来は一極集中の今のやり方ではない、もっときめ細かいことを目指すのだというのは、23 ページのほうがリアルだと思います。25 ページの図は、まだ市役所中心で、みんなにこちらへ来いと言っているという誤解を招くと思いますので、疎外感を感じさせない、今の考えが反映された分かりやすい図に直していただけると、出水委員がおっしゃっていることも含めて考えていかれると思います。

#### 【紅谷委員】

23 ページの図の生活圈や拠点、丸を書いて分かりやすいのですが、実際の生活圈は人によって違って、車を使われる方は生活圈は小さな丸ではなく、縦や面に広がっていると思います。コンパクトシティと言われる中で拠点になったら、点と点をつなぐネットワーク、モビリティの部分が見えません。「公共交通の充実」と書いてありますが、矢印で結んでいるように、市がバスをいろいろな地域につないでくれるのかというと、難しいところも出てくる。そうすると車を運転できない市民は、将来どうしたらいいか分からないという不安があると思います。その辺りは将来変わる可能性もあると思っていて、河内長野のように分散しているところでも、軽自動車よりもっと小さい車や自動運転などの新たなモビリティを誰でも運転でき、電気自動車なら環境にも厳しくない。そういう意味では、コンパクトシティと書くだけではなく、河内長野市としてもそういう新たなモビリティの部分もしっかり考えていく

という意味が見えれば、少し安心されるのではないかと思います。

**【議長（会長）】**

それをうまく表現するのは難しいです。

23 ページと 25 ページの図が別のページにあるので、全く違うものに見えますが、25 ページの図を拡大したら、23 ページの図が見えるという構造にならなければいけないので、その辺の書き方が難しいのですが、事務局のほうで工夫しますか。

23 ページの図の構造で、駅前だけに集中するのではなく、小学校区、中学校区のような生活圏域を非常に大事にしているというのができているのですが、絵として表すと 25 ページだけが一人歩きする感じになり、皆さんが言われたような誤解が発生するので、23 ページと 25 ページの図をどう合体させるか、あるいは同じ区域でどう集約するかという工夫をしますか。

**【木ノ本委員】**

谷筋に古民家があって、長年この河内長野を守り続けている方もおられます。その方がこの地図を見たら、もっと異議があると思います。住んでいる地域の目線でいろいろな意見に分かれるのは当然です。広域農道から下の広い面積が奥河内と呼ばれる地域で、河内長野の売りということも十分ご理解いただいて、その辺をバランスよくお願いしたいと思います。

**【駄場中委員】**

生活圏は、最低でも小学校区であるという言葉が出ていないので欲しいと思います。

**【議長（会長）】**

先ほど紅谷委員からあったように、一律に小学校区とか中学校区とするのは、皆さんの生活圏が少しずつ違うこともあるので、あまりにも一度に変えすぎるのはどうか。

**【紅谷委員】**

人によって生活圏のイメージが違うのも問題ではないかと思います。

先ほどはかなり未来の話をしましたが、例えば神戸は坂のまちで、昔は車がないと生活できなくて、車のない人はあまり移動できないまちでしたが、電動アシスト付きの自転車が出てから、免許がない人でも坂を移動できるようになって、生活圏が広がったということもあるので、そういう点から、技術の開発がモビリティとして新たな可能性を持たせることもあることを言いたかったのです。

もう一つ、生活圏等もその人のモビリティによって変わってくるので、将来も今現在のそれぞれのライフスタイルを大きく変えない形でいくのか。コンパクトシティと書いてしまうと、生活スタイルを変えろと言われていていると思われる方もいるので、そこは誤解を招かないような路線がいいと思います。

#### 【駄場中委員】

将来技術が進んで、おばあちゃんでも千代田駅まで車に乗っていけるのであれば、いいかもしれませんが、現在そうでない以上、車に乗れない高齢者の方は、市役所まで出てくるのも大変なので、現在の状況で、小学校区内くらいで最低でも生活ができるというのをつくっていかねばいけないと思います。23 ページの絵を見ると、電車が走っているので、真ん中は駅に見えます。

#### 【幸山委員】

23 ページの「河内長野市のコンパクトシティのイメージ」のコンパクトシティは、タウンビレッジの思想です。ビレッジは生活圏で、コンパクトシティでいうと集落。タウンは河内長野市でいう拠点です。

コンパクトシティでは、ビレッジに小学校があつて、郵便局がある。河内長野市でこの生活圏をどうするか、中学校まで置くのかとかいう議論はあります。拠点は、皆さんがいろいろ楽しめる位置付けになっているのです。

河内長野市のコンパクトシティの生活圏と都市拠点というのは正しい方向にあると思いますが、1 番の問題は、生活圏と拠点をどう結ぶか、公共交通をどうするかです。住宅開発した団地は駅が近いが、従来から住んでいる方は、バスで30分～50分のところに住んでいます。

下手をすれば、近くの方は非常に有利で、差別が出てくるということが、河内長野市の最大の課題だと思います。

#### 【副会長】

23 ページの図は、生活圏が4つありますが、高齢者の介護予防も含めた地域ケアシステムの中では圏域を設定して、必要なサービスを30分以内でということ、中学校区を想定していますので、河内長野市の地域ケアシステムの中では、高齢者の日常生活圏域は、中学校区辺りを設定していると思います。また子どもの教育・保育も圏域を設定して、整備をするという国の枠組みがありますから、高齢者や子どもの保育・教育を考えると、23 ページの生活圏の図は、こんなに少なくないはず。だから、この生活圏の何を取り出して図を書くかだと思います。それをイメージとして図示しようとする、23 ページや25 ページのようになってしまうということだと思います。

#### 【廣瀬委員】

25 ページの図をこのまま市民に下ろすと誤解を招くということですが、河内長野市の社会人口構成と住宅開発が、山麓・山間地に展開するので、23 ページのほうが公共交通も含めて分かりやすいと思います。25 ページの図は、1点集中で行政はやりやすいと思いますが、非常に分かりにくいので、23 ページを分かりやすい形で工夫してもらう必要があります。

事務局は、河内長野市では生活圏の開発団地で、空き地・空き家が増えていると軽く説明されましたが、防災力、防犯力、景観保全を含めた安全安心のまちづくりのためにも、定着人口を減らさないためにも、住環境が一番大事だと思います。生活圏が集中すると、開発団地の空き地・空き家が増えていくので、国の空き家の法制化に基づいて、自治会のネットワークで、行政に対して早急な条例化を申し入れています。

コンパクトシティの拠点と住環境も大事にしないと、駅中心になってしまうと思います。

#### 【中林委員】

25 ページの図の奥河内は、緑色に入るのではないかと思います。奥河内には延命寺や観心寺もあるのに、河内長野駅周辺が鉄道のガードで観光バスが通れないためにネックとなっています。また、消防の拠点は社会資本をつぎ込んでこんなことになっているだけで、民間でやっているところをないがしろにしていると思います。

本当の河内長野の住民はごく一部で、河内長野を開発して住んでくれる人が6～7割なので、図面に書いてあるようにコンパクトにするのなら、市役所を最初にコンパクトにしなければいけないのではないかと。市役所の都合のいい書き方をしていると思います。議論すると不服ばかり出るので、もっと気を付けて図面を書いていただきたいと思います。

この絵ではふるさと農道よりも駅に近い部分が奥河内となっていますが、こんなばかな話はなく、何となくだまされているような気がしました。廣瀬委員が言われたように、奥のほうには住民が住んでいないような図面になっていると思いますので、市役所はもう少し考えて物事に取り組んでいただきたいと思います。

コンパクトにするならば、千代田駅前の東側を再開発するとか、役所が本腰を入れて知恵を出してもらわなければ困ると思います。

#### 【副会長】

25 ページの図面に「行政サービス拠点」と書かれていますが、実際には行政サービスを提供する拠点がここに集中しているというわけではなく、分散しているし、民間がサービスを提供しているところもあると思います。この図面では、ここへ行かないと行政サービスを受けられないと思ってしまいます。行政サービスが、民間委託や指定管理の手法を用いながら地域のサービス提供の拠点が多様化していますので、ここに書いてある「行政の拠点」は、実際には「行政運営責任の拠点」ではないでしょうか。

#### 【渋谷委員】

23 ページのコンパクトシティのイメージは、第5次総合計画にのっとっていいと思います。23 ページのコンパクトシティの地域拠点を行政本部とか、行政の本拠地というイメージで、公共交通の充実と利用促進という言葉でつなぐ方法を、今後議論すべきだと思います。

要するに今後、生活圏と拠点を結んでリアルタイムに人を運ぶということを考えると、25

ページの都市空間概念図は、河内長野には合わない、無理な感じがしますので、23 ページの構造をどのようにスムーズに行うかが主題になると思います。

**【村上委員】**

コンパクトシティは、その中で日常のそこそこの生活が完結できるというのが一つのくりだろうと思いますが、生活圏の機能や生活圏のエリアなど、その生活圏の定義が明確でないために、何となくこんなものではないかという形になっているのではないかと思います。

また、「河内長野市の特性を活かしたコンパクトシティ」とありますが、その特性にこだわるあまり、山間部や里山に思いが至ってしまい、交通網の足りない部分を補充しなければいけないとか、実際はかなり難しい。「河内長野市の特性を活かす」ということはどういうことかが追求されずに概念図が出ているので、いろいろな意見が出てくるのだと思います。

どういう形のくりが1つの生活圏かということで、山間部で生活圏をくくと相当広大エリアになって、行政で管理するのは大変だろうと思いますので、そういうことも含めて、河内長野版コンパクトシティの概念をもっとクリアにまとめた上で、このようなイメージに入っていないと、差別感が生まれてきたりするのではないかと思います。市民は全て同じだというベースに立った考え方でやっていただきたいと思います。

**【議長（会長）】**

議論が集中しているのは、23 ページの2番だと思いますが、「河内長野市の特性を活かしたコンパクトシティづくり」よりも、副題の「生活圏と拠点の連携を図りながら、多様な価値観に対応した、豊かな生活を創出」という都市構造を考えますのほうが大事かもしれません。

1番は方向性を示しているだけなので、「ネットワーク型コンパクトシティ（集約連携都市）への再構築」はあってもいいと思います。

**【木ノ本委員】**

「コンパクトシティ」という文言そのものに問題がある。日本語で書いていただきたい。

河内長野のような広域な場所にこの文言は似合わないと思います。この言葉を入れるといろいろな立場で利害関係が出てきてまとまらないので、今議長が言われたように工夫していただくほうがいいと思います。

**【議長（会長）】**

だいぶ議論をして、今日になってゼロになるのはどうでしょうか。副題が入ってきましたが、事務局はいかがですか。

**【木ノ本委員】**

河内長野のように大阪で3番目に広いところでコンパクトシティというのは、ものすごく

議論になると思います。

#### 【道本委員】

私は教育や福祉の部会だったので、こういう話はなかったのですが、建築士なので、都市移動に興味があって、こういうことを書いてもいいかお尋ねしたら、思いを書いても構わないということだったので、書いてきたことを簡単にお話しします。

コンパクトシティというのは、大きな場所をいうのではなくて、山の中でも、ニュータウンでも、駅前でも、どんなところに住んでいても、誰もみんな平等に普通の生活ができるというイメージだと思います。

1番の問題は、高低差ではなく遠さなので、スマートバスという小さいデマンドに対して動くバスをつくと、みんなつながるのではということで、市が補助をしてでも、全員にスマートフォンを持たせて教育し、市内限定でどこかにいきたい人が5人くらい集まると自動的にバスを走らせるシステムを作る。これは行政だけではなく、南海バスとか公共機関も必要で、ハーモというシステムをやっています。これは公共機関もサーバーシステムで動かすのです。たくさんの方がここへ行きたいときは、バスを調節して、増便を出すシステムです。これは行政も公共機関も一体になって、まちの中だけでスムーズに流れるというものです。

その他買い物についても、ペッパー君（ロボット）が買い物をするという提案や、空き家や空いている小学校を提供して、若者が小さいビジネスを立ち上げて起業することができるというものをイメージして書いていますので、よろしくお願いします。

#### 【議長（会長）】

何点か大きな問題があると思いますが、「コンパクトシティ」という言葉は、23ページまでは一切触れられていなくて、23ページに出てくるのですが、副題として「集約連携都市」というイメージや、豊かな自立的な生活ができるということは文章としては入っていますので、事務局、行政は、その辺の変更は可能でしょうか。

#### 【辻野部長】

最後になりまして、皆さんにいろいろご意見を頂きました。何回か変遷してこの文になっていますが、もともとの議論で我々事務局も理解しているのは、23ページの部分です。開発団地の生活圏も、左下のキャンプ場みたいなイメージの5つの谷の生活圏もあります。生活圏は小学校区ごとだけでなく、概念図ということでこのようにさせていただいています。

連携型ということで、ここではバスを書いています。今後構築するところでは、他にいろいろ手段は出てくると思います。イメージ的には23ページの考え方ですが、それを大きい市域で、もう少しリアリティーな感じで落としてしまうと、25ページのようになります。

里のエリアのところは、もっと分かりやすくできないかと思っていますが、生活圏はここに何かのエリアで落とすのは無理なので、まちのエリアの生活圏、里のエリアの生活圏、森



のエリアの生活圏というイメージです。

行政サービスも市役所、警察、キックスがあるといったご意見も踏まえてこういう形にして、消防の拠点もここへ追加しています。この図だけ見ると、この6つが拠点にはまるので誤解を招きましたが、ここには当然生活されているエリアが含まれていますので、そういう意味合いでは皆さんがご議論いただいている部分と一緒になのです。

名称も、国はグランドデザインでコンパクトシティという名前ですが、河内長野の場合は、里でも、住宅団地でも、まだ国ほど急激に減っていないので、そこを大切にしていこうということで、名称は横文字ですけれど、集約連携型、ネットワーク型という意味合いということです。もう一度ご議論いただいて、ご理解いただけないかと思います。

それと、25 ページの都市空間概念図を基本に、都市マスタープランでは、もう少し詳しい図になっていくという関係になります。

今まで何回もご議論いただきまして、皆さんのご意見と事務局も一緒だという思いですので、表現の仕方がうまくいっていないのかなという感想です。

#### 【議長（会長）】

23 ページは気持ちとしては書いているので、副題と本題を入れ替えて、片仮名のほうを副題にすることも含め、どういうふうに表示するかは預からせていただきたいと思います。

25 ページを書くのか、あるいは少なくとも 25 ページと 23 ページが一体的に表示されていないと非常に大きな誤解を招くというご指摘を受けていますから、これをどう合体できるかです。文言としては、皆様方からご指摘いただいたことは書いてありますが、絵的に表れていないので、ここは預からせていただくことでよろしいですか。

#### 【廣瀬委員】

基本的には、会長がおっしゃったとおりでいいと思います。先ほど事務局の辻野部長の説明がありましたが、誤解を招くような総合計画を作るべきではない、市民の目線で総合計画を作らなければいけないと思いますので、誤解を招くような文言や横文字で「コンパクト」というイメージは避けてほしいと思います。

#### 【増田（勝）委員】

他のことですが、20 ページの「第1節 まちづくりの基本理念」に「成熟した都市として」と書かれていますが、「成熟」というのは、この計画の中でどの程度を意味しているか、意義付けを下にコメントで書いていただくと分かりやすいと思います。

#### 【議長（会長）】

整理しますと「第2節 河内長野市の現況」に「空き地・空き家、管理放棄地」が入っているので、それを受け「第4節 河内長野市の主な課題」の中にも、そういう課題認識をし

ておくことが1点目。

20ページの「成熟した」をもう少し解説できないかを預からせていただくことが2点目。

3点目は、23ページの文言を少し見直さなければいけないかもしれません。書いてある内容はいいと思いますが、この中で道本委員や紅谷委員から頂いている公共交通、公共的交通といった、いろいろな意味での個別交通も入れて、多様なモードが含まれているので、それを評価しなければいけないのではないかということを見直しておかなければいけない。

もう1つは行政サービスで、サービス拠点に市民は全部来いという誤解を招かないようなチェックをかけなければいけない。

また、23ページの後に25ページの図が入ると思いますが、ここの中に生活圏という対象を持っていることが分かるような書き方の工夫ができるかどうかです。もしかすると、これがないほうがいいという話になるかもしれませんが、その辺りの修正。

それと、最後の「Ⅱ：計画実現のための方策」で、行財政改革も積極的にやりますというものももう少し見えないかと、「選択と集中」でサービスの提供の仕方の中での行政の配置にも少し触れなければいけないかもしれません。

もう1つは、「基本戦略1 協働によるまちづくり」なのか、「基本戦略2 「選択と集中」による行政運営の推進」なのか、極力いろいろなものをみんなが受け入れていかないと、次への展開論はないことも少し触れておかなければいけません。今日頂いた話は、そのような形で対応を図らなければいけないと思いますが、いかがですか。

#### 【西村委員】

31ページの「基本政策 10 にぎわいと活力を創造する」の4点目に、「奥河内の玄関口である地域活性・交流拠点」といきなり出てきますが、「奥河内の玄関口」をどうイメージしたらいいかわかりません。

#### 【緒方補佐】

「奥河内の玄関口」ということで、ビジターセンターでは情報発信をしっかりとしているので、注釈を入れる方向で検討いたします。

#### 【西村委員】

「玄関口」というのは、どれだけのエリアでどの部分ですか。

#### 【辻野部長】

奥河内のイメージは、この図の緑のところ、山麓のイメージと、ふるさと農道が千早方面へ続いていて、千早や金剛山までが奥河内です。

#### 【西村委員】

山間部のイメージですか。

**【辻野部長】**

主にはそうです。「奥河内くろまろの郷」が奥河内ビジターセンターということで、JAの建物とは別棟で、市の観光や奥河内のイメージを発信しています。また、ここから奥河内へのフィールドを展開していこうという意味で、「玄関口」としています。

**【議長（会長）】**

それについては、解説か文言を入れるなりの修正をしてください。

もう1点、34 ページの「3. 広域行政への対応」は、単純に財政状況だけではなく、レクリエーション、産業化、観光の活性化の意味でも広域行政の対応が必要だということを足しましょう。この辺りが、今日頂いていたところだと思いますが、いかがでしょうか。

**【田中委員】**

32 ページの「基本戦略1 協働によるまちづくり」は、先ほど言った生活圏を充実させるという意味合いで、そのために行政がどういう体制を取っていけばいいか、どういうサービスを提供していけばいいかが書かれています。また、最後に「地域サポーター制度などによる地域支援体制の充実」とか「行政の体制づくりを推進します」ということが書かれている。これはまさしく、将来は行政サービスの拠点の細分化を目指しているということを行っているのではないかと考えました。「基本戦略1」が生活圏に対応した行政サービスで、「基本戦略2」と「基本戦略3」は、全市レベルで見た行政の体制が書かれていると思います。

**【議長（会長）】**

「基本戦略1」にも、全市レベルでの議論は書かれています。

**【田中委員】**

先ほど、行政サービスの拠点の話が書かれていないということを言われていましたが、ここにきちんと書かれています。

**【道本委員】**

25 ページの題が「将来の都市空間概念図」となっていますけれど、今と変わっていないと思いますので、「今の」ではないですか。

**【議長（会長）】**

その辺りは、もう少し考えましょう。

#### 【嘉名委員】

たくさん意見を頂いた担当の部会で議論をしてきましたが、加藤部会長がいらっしやらないので、今までの議論と、私見をお話しします。私自身は、皆さんと理解は違っていません。

私がお手伝いをした例で、神戸市が都市マスタープランを作りましたが、人口 150 万人の都市でも、コンパクトシティという言葉を使っています。「構築から再編へ」という言葉を使って、かなりきついことを言っています。河内長野では「再構築」という言葉にしているので、あえて「再編」と言う必要はないと思います。生活圏は、部会でも議論しましたが、河内長野は、いろいろな生活の在り方があるので、1つの絵でこれが生活圏ですと書き込むのは難しいのではないかと。多様な生活の在り方があっていいので、あえて書かないほうがいいのではないかと議論もありました。23 ページの絵も、何度も書きかえ、生活圏のイメージはいろいろあっていいでしょうと。山に近い生活、自然の中で豊かに暮らす生活もあってよし。ただし、まち中で暮らすよりは多少不便かもしれない。そういう生活が好きで河内長野を選ぶという人もいるし、そういう意見も頂きました。またまちの中でも、もう少し豊かな生活。そういうものが隣り合っている、あるいはお互いに補完し合うことで、より豊かな生活を享受できることが、河内長野の豊かな都市の在り方ではないかということです。

そのことが、書きぶりとして弱いのであれば、部会としても反省をし、書き加えたり見直すことも考えたいと思いますが、議論を聞いて違っているところはないと思います。

25 ページの図は、拠点の丸が目立つので、ここまで大きくなくていいと思います。駅前の拠点に 20 階建てのビルが 10 本も建つことを目指しているわけではないので、表現の問題で見直しをさせていただきたいと思います。

#### 【議長（会長）】

何度も言いますが、文章としてはできていますが、図として書いたときの表現の問題がかなりあるので、第 2 部会とも議論をしながら、修正させていただきたいと思います。

#### 【西村委員】

32 ページの「基本戦略 3 安定した財政基盤の確立」で、「自主財源の確保などによる安定した財政基盤」の「自主財源の確保」は、何かイメージしているものがあるのですか。

#### 【小林副理事】

人口の減少に対応して、極力抑えていくことと、産業振興を図り、その税収によって、自主財源を確保するという意味です。

#### 【西村委員】

市でこういうものをつくるとかの特別なイメージはないのですか。

**【生地委員】**

30 ページの「基本政策 8」で、川、谷、水のまちを強調したいので、一番下の文に「水源のまちとして」を加え、「生活環境の向上を図ります」では曖昧なので、「水資源の向上を図ります」に変えていただきたいと思います。よろしいですか。

**【議長（会長）】**

環境の美化や公害の防止もありますが、河内長野の一つの特徴である自己水源を持っているところをもっと強調できるのではないかというご提案だと思います。タイトルが「豊かな自然と暮らしが調和する」なので、時代的には「環境美化や公害の防止」からもう 1 歩踏み出したほうがいいかもしれません。

**【議長（会長）】**

今後のスケジュールで、4月20日からパブコメをしたいので、先ほど預かって改善したい点については皆様のご理解を得たと思いますので、会長・副会長会議のようなものしたいと思います。「その他」をお願いします。

**【緒方補佐】**

「その他」は今後のスケジュールで、4月20日～5月20日の1カ月間、パブリックコメントをしようと思います。この素案につきましては、市内の公共施設、インターネット等に掲載するのと併せて、ご検討いただいている地域の方々にも、ご意見を頂けるようにお願いしたいと思います。

パブコメの提出状況によってはこういう会議を開きますが、あまり大きな意見がなければ、6月下旬に答申という形で、最後にご意見を頂こうと思います。

パブコメを受けての調整は、会長と正副部会長等の構成で、先ほどの第2部会の件は、あまり時間もありませんので、場合によっては、第2部会の正副部会長と調整をしながら、案をまとめたいと思いますので、よろしく願いいたします。

**【議長（会長）】**

今日、たくさんの意見を頂いて、絵として見えるものもありますので、パブコメ終了時点でもう一度この審議会を開いていただくと、私のほうで預からせていただいたものも気が楽になりますが、よろしいでしょうか。

**【緒方補佐】**

そういたします。

**【議長（会長）】**

今日予定した議案については、全て終了しました。非常に積極的な意見交換ができました。  
どうもありがとうございました。

以上